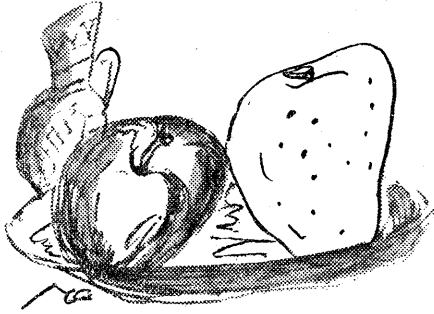


問 題 児 の 生 長



土 屋 眞 砂 子

はじめに

子供個々の問題点をしっかりと握って教育に当ることは実家にとつて極めて大切なことと思うが、問題児をほんとうに仕様のない子だときめつけて、神経過敏に事々に問題児扱いをすることは、教師自身が問題の教師になつてしまふことであつてしまふべからぬことと思う。

私は長所短所は裏表、どんな短所でも教師の指導如何によつて集団へのよい影響として生かすことが出来るという楽天的な考え方で終始している。

それ故に問題児ということになるとどの子供を選ぶかと苦心した。問題児とここに呼ぶことを申訳ないと思ひながら二人の古い記録を拾うことにした。

かんしゃく持ち、熱狂的、秀才型のA児

1 家庭環境

父は東大理工科出身某会社化学研究部長、無口無愛想学究肌の人、子供の教育に関してに至つて放任、酒は多少の程度、当時三十三

才。母はお茶水専攻科出身、優美家庭的な人教育に熱心、体質弱く神経衰弱症にて入院静養数度、当時二十五才。

A児は長男で弟妹の各一名はどちらも鈍重型。女中は誕生当時からついている温厚な読書好きな人。

家屋は半ば洋式文化的な生活、広い庭には四季折々の花が咲いていた。母親の趣味らしい。遊具玩具等も豊富に可成り子供中心の雰囲気を感じた。

父方の両親が隣家に住んでいて常に世話をやくらしい。附近は大邸宅の多い閑静な住宅地帯である。

2 特性及び幼稚園での行動

○三才から五才までの満三年間保育

○丸々と肥つた発育のよい児、ちぢれた赤い髪、まつ毛の長い大きな眼、笑くぼ等外人臭い愛らしさをたたえていた。茶目気のある快活な児だが、興奮し易く癩に障ると忽ち激怒し凄味をおびた表情でやつ当たりする乱暴さは一種気狂いじみていた。

○衣服持物等には一向に無頓着、新調のエプロンも朝からドロドロ、靴下の先はいつも五

寸位ぬけてつま先にブラブラ引きずって歩
いていた。おべんとう用具、ハンカチ、帽子
等は常に風来物の仲間になつていても平氣、
自分から探そう等とはしない。

○絵画表現は至つて幼稚、ぐさぐさと赤や黒
のどぎつい色で紙一ぱいに、さも氣晴らしと
いったように大まかな線で描きなぐる。それ
でも自分では可成り意味を持った生活表現で
あるらしく、ブツブツと語りながら一人悦に
入っていた。

○製作は粘土のようなものは好んで奇想を表
現するが、紙製作等は実に汚なく無器用なも
のでやろうという積極的な意思を余り持たな
かった。

○一番満足そうな遊びは砂を掘ったり、水を
流したり箱積木をかついだり汗だくだくにな
つて、精一ぱい自由に気の合った二、三の友
達と遊ぶことであつて、昼食時やお帰りの時一
度や二度の呼び声では到底集つてくれない。

引きずるようにして別行動をとられても平氣
でこびりついていた。

○他人の遊びのクライマックスをねらつて遠
慮なくふんづけたりするのが得意、ブランコ

等は始終横取りをする。それがままにならぬ
と髪をつかんで吊し上げんばかりの残忍性を
帯びた行動をすることもあるので、時々氣の
弱い児童は狼の襲来とばかりさわぐこともあ
つた。それでいて時々女の児達を発作的にい
やがるのを無理に抱きしめたりするような過
激な愛情を表現した。

○お話等は芸術的なもの、平和的なもの、単
純なもの、喜ばない。刺戟の強い探險的なも
のや怪奇的なものを非常に喜ぶと共に、数や
機械に関する遊びには特に興味をもつてい
た。

○附添の女中さんは途中でまかれてしまつた
り、ラジオ屋や停留場の電車の觀察にねばら
れてしまつたり、玩具屋の前で地面を踏まれ
たり大変な心遣いのようなであつたが、常に忠
実ににこのこと後を追いかけていた。

○常に集団の平和を乱す存在ではあるが、何
となく俗にいう天才と氣狂いは裏表という感
じで、秀才的な頼母しい閃めきをみせてい
た。狼の襲来とばかり恐れられることもある
のに、どことなく人気のあるほほえましい友
交を子供達同志の中にもつている良さもあつ

た。

○保育第一年に於ては三才児のどの子もがそ
うであるように集団の中にあることを樂しむ
時代で遊びが余り友達と交又しないのでこ
うした行動は目立たなかつた。第二年目に於て
最も鋭くその問題点を縦横無尽に發揮した。
三年目には幾分と集団教育の力が身についた
為かおちついた個性として良い面を多分に伴
うようになった。

3 原因と考えられるもの

物心共に豊かな家庭の長男にはふつくらとし
たおらかな児が多いのにA児の場合は全く
反対、両親の頭脳性格等から観て遺伝的な素
質と推察した。また長男に圧迫されて育つた
弟妹の鈍感型から観て、長男として非常に大
切に自由奔放な愛撫をうけて育つたことも一
つの原因かと推察した。

4 指導の課程

○強い刺戟を与えないように即ち反抗心を起
させる機会を少なくするように、リーダー性
のあるお姉様氣取りの女児等を代る遊び
のグループに入れて、遊びの雰囲気融和を
計ると共に常にその行動を遠くから看守するこ

とに努めた。

○教師との接触の機会を努めて多くし抱擁感を抱かせ、先生はいつも自分の味方であるということを知らせ遊びの場の安定感に努めた。

○家庭生活に於て不機嫌なこと等あった時は予め報告をねがい、憂憤晴らしの乱行の起らぬよう予め注意をもって接した。

○母親は理知と愛情とを兼備した熱心な人、女中さんもこの母親の依頼によって、幼児心理や幼児教育の大事を私に学んで下さった。り、皆して協力根気よく社会性の涵養に努力したのであるが、期待する効果は遅々として上らなかつた。

5 その後の生長

○小学校を卒業する頃迄は自分勝手な振舞いが相当多く、皆と一緒の平和はなかなか保てなかつたらしい。電車の中で同級生の眼を洋傘で突いたのも三年生頃だつた。

○中学校時代から次第に性格がおちついて勉学に集中し出したらしく高等学校時代には、数学に於ては級中右に出づるものなしという優秀さを発揮し交友関係もよくなつた。

○幾分非社交型学者肌ではあるが、良い家庭をもち現在某官大物理学助教。

わがままで、自尊心の高い秀才型のB児

一 家庭環境

父は外語学校出身、貿易商、海外への往来繁く、実業的に敏腕家らしい、当時四十才、母は専門学校出身、家庭科中等教員の経験あり、多趣味教養のある努力実行型の人、当時三十二才。

B児は比較的年寄りつ児であり、一人つ児で両親の行届き過ぎた感のある愛撫の中に、育つ閑静な住宅地帯に宏大な邸宅を新築、相当高級な生活振り、女中は一、二名よく代つていた。

二 特性及び幼稚園での行動

○三才から五才まで満三年間保育

○両親共に肥満型であるが、子供は瘦身、発育は普通、元氣旺盛、男児らしく、腕白、いたずらつ児であるが豆紳士的タイプ。

○服装持物等身辺のすべてが清潔きりりとした装い、自他の区別もはっきりしていて自分

のものはなかなか大切によく整理した。

○グループ遊びには積極的によく参加するが比較的能のある子供で然も自分の手下になる者を特に遊び相手として好んだ。能力はあつても自分の勢力をおびやかすような者とは遊ばない。また能力の劣る者と遊ぶ時は軽蔑した待遇どちらかといえば奴隷扱いをした。

○リーダー性の強い友達や腕力のある友達と遊ぶとすぐに問題を起して常にけんかの中心人物となつた。よく教師にいつけ口を訴えて来たが教師の処置が自分に不利だと思つて敏感に姿をくرامしてしまつた。どんな場合にも絶体にあやまらない、形式ばかりでなく心の中でも反省しているような気配はなくむしろ不平を抱いているようであつた。

○問題は常に家庭に帰つても自分が有利であるように外の出来事の報告をすることである。母親はそれを信じ吾が子が不利だと認めると直接家庭へ談判注告に出かける、故に母親同志のもつれの中心人物でもあつた。

○母親は教師との話し合いになると、実に巧言麗色よく了解したという儀礼的な態度をとるのであるが、その子と遊ばせないとか、そ

の家庭には絶体に遊びにやらないとが、瞬間的な幼児間の出来事にもかかわらず、いつまでも執念深くにくしみの態度をもち続けた。

○真面目で快活で何事にも能力優れ集中性強く、絵画、製作、音楽等凡て自己中心の表現の面に於ては最優秀の成績を發揮するのであるが、おかたづけ、おそうじ、協同的な作業になるとかけひきの心強くひよいとうまくぬけてしまった。

○快活な可愛いビチビチとした男児らしさはどの母親もが羨やましく思う程のタイプであつて、頭脳の優秀さは子供ながらにお互にたえ認める程であるが、余りにも自尊心強く利己的で、同情性協同性等他人を尊重する心が薄いので友望の乏しい存在であることは玉に傷であつた。

3 原因と考えられるもの

○両親共に、財力のあること、生活レベルの高いこと、吾が子が優秀性をもつことに非常な誇りを持ち、対談すると常に自己を誇り他を卑下するので不快を覚える程であつた。

○確に高級な生活層で、行届いた教育観をもつていたが吾が子中心の親馬鹿の域を脱する

ことが出来ず親自身非社会的であつたこと。

○父親が職業柄親分肌であつたこと、母親が父親が留守勝ちなので、責任感、孤独感交々のものから子供の教育にあせり過ぎていた。

4、指導の課程

○友達同志ではなかなかへ理口を漕いで協調しないが、理解力判断力が強いので常に教師が行動を共にし、リーダーを交代にして自他の長所を認め合う機会を多く作つたり、飼育や掃除等の当番を共にして、同情感、責任感を養うことに努めた。

○母親に参観を築く求め集団の中での吾が子の姿を観察して貰おうとしても、なかなか子供が賢く大人の見ている前では悪い事も少ない。話し合いにすれば非常に快よく了解協力するが、裏へ廻つては他児を排撃するので心の底まで信じ合つての話が進まなかつた。

一番困つたのは吾が子に不利な事件がある教師の心を物質で釣ろうとするのだった。

○親子三人揃つて実に賢く、性格強く、自信満々であることが却つて児の幸福をマイナスするように考えられてならなかつた。

○両親がもつと能力が乏しいとか、或は和敬

の心をもつているとか、素直に従順に吾が子も人の子も共々に伸び行くことを愛する寛大さをもつていたならば、B児の優秀な幸福さは倍加することであろうと一両親に働きかけたが私の力の方が弱くて、家庭教育の開拓はなかなか困難なものと考えさせられた。

5 その後の生長

○小学校、中学校、高等学校共に一流学校に学び成績簿は常に秀の勢揃い、母親からは会う毎に成績だけが鼻高々と報告されたが、一定の友以外には嫌われる存在のようであつた。

○優秀を誇つた彼ながら運拙なくて東大に二度の不合格、私大に進んだが既に一年二年上に同級生が在学していたわけ、この事は一家にとつては一大事住居も転じてしまつたが、夢多い青年にとつて余りにも大きな試験であつた。然し本当の人間性を培うためには、今こそ反省奮起衆と共に生きる真剣な好機会であるうと私は励ましの言葉を贈つた。

○現在一流銀行に勤務、音楽に興味を持ち心を暖めているとは嬉しいたより、やがて経済界に翼ばたくことであろうと期待している。

(市川市日出学園幼稚園)